連載 第2弾 | インシュアテックイノベーション -Phase 2- | 8

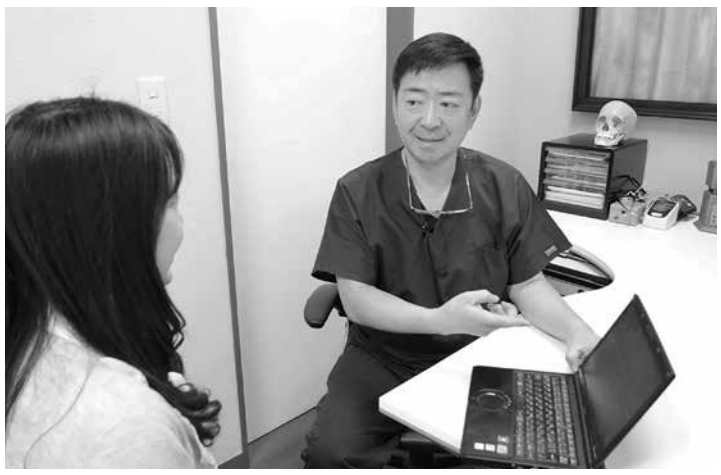
―生保エコシステムの新たなステージ―

ヘルスケア分野への展開

アイリックコーポレーション（IRRC）フェロー
保険・ヘルスケアDX担当　畔柳 主税

《「Dr.コトーの診療所」から「人を観る時代」を先読み@宮古島》

今回は東京のビジネス最前線から離れて、映画「Dr. コトー診療所」をヒントにスピンオフ風の気軽なお話をしていく。離島の伝統野菜から再生医療の最先端研究までに及び、医療と保険の原点にも還る。宮古島でのスーパードクターとの出会いはプロセスエコノミーの観点でも感動的だ。



陰山先生の高輪アイランドクリニック（宮古島）

医療の本質を考えさせられた！

２０２２年の年末に「Dr. コトー診療所」を観た。03年にTVドラマがスタートしたので、20年の集大成である。この作品は、離島医療に一人で挑戦する外科医の五島医師の物語である。島の人は専門的な治療を受けるために内地へ行く必要があり、日々の暮らしがある中で大きな負担となる。そこで、コトー先生は島でいろんなけが・病気の手術を行い島の人を救う。天才的な腕を持ち、犠牲的精神で挑戦する外科手術はドラマティックで、感動的である。

医療の本質を考えさせられるのがその基本姿勢―「病気を診るのではなくて、人を観ること」―だ。漁師の足の治療には、命のリスクが高くなっても、足を温存する手術に挑戦する。がんの老人には、入院・副作用が伴う治療よりも在宅での緩和医療にする。

離島ならではの生活の知恵に触れる

現代医療では専門的な治療は進化しているが、疾病への治療は統計・確率がベースになる。現代の保険も細分化され、死亡・事故・病気などの各種リスクの統計・確率をベースに商品化される。より多くの人を効率的に救うビジネスとしては必須のことだ。しかし、リスクマネジメント的には、治療も保険も発生時対策だ。病気には未然防止が大切で、予防医療・健康増進が大切だが、一人ひとりの個性・環境によって対策は異なる。

都会のビジネスから切り離された離島には、治療・保険が不十分な時代からの生活の知恵があった。「Dr. コトー診療所」の撮影場所は、与那国島である。私は、6年前から宮古島に通っているが、離島の生活の知恵も分かってきた。アンマー（お母さん）は、山羊・島野菜・芋などを使った健康的な料理を作ってきた。おばあは、体調が悪い家族がいれば、薬草を煎じて飲ませていた。

モリンガおじさんのパリ番屋（自然農園）

症状・統計ベースからウェルビーイング志向へ！

沖縄の風習である模合（もあい）は、相互扶助（冠婚葬祭）、親睦（飲み会）、資金調達など助け合いの精神で多様な個人のニーズ・ウェルビーイングに応えている。

深まる宮古島との縁、広がる夢

私の宮古島での縁も深まってきた。島野菜では、宮古島の縁となったアロエベラを調達してスムージーを作って飲んでいる。モリンガおじさんこと川満さんと、満月月桃茶の新城さんと懇意にしていただき、ヘルシーなモリンガ茶と月桃茶を飲んでいる。行きつけである島唄ライブ「ぶんみゃあ」の古謝さんと仲間のおばあとの模合に入った。

そんな助け合い・伝統食の宮古島、その秘密の解明に、最先端医療が迫っている。予防医学最先端の高城剛氏のメルマガに、島野菜のエクソソームを研究するドクター陰山が登場した。エクソソームとは、再生医療の幹細胞に付随して発見されたマイクロRNAを運ぶ物質だ。陰山先生は、島の薬草の効能には、栄養素を超えたエクソソームが鍵を握ると考えた。そこで、宮古島にクリニックを開業して、島野菜を採取し、東大と連携して島野菜の遺伝子解析をしている。

私は早速、陰山先生に宮古島でお会いして意気投合し、応援することにした。モリンガ茶・月桃茶の川満さんと新城さんも紹介した。エクソソームのリサーチも順調で、研究結果と画期的な治療につながるのも間近だ。島のおばあの知恵が、現代社会に蘇るのは素晴らしい。日本の伝統的な農業の復活にもつながるのではと、夢は広がる。

縁のある2人のドクターが診療開始

宮古島で陰山先生と飲んでいたら、びっくり仰天の事態が発生。22年10月の本連載で紹介した「食べても太らず、免疫力がつく食事法」の著者、ドクター石黒が陰山先生と宮古島で診療を始めるとのこと。石黒先生は、日本のヘルスコーチの草分け的存在で、フォロワーが25万人を超える人気YouTuberでもある。某大手生命保険会社でも講演している。

22年11月には、影山先生から石黒先生の歓迎会に私も呼んでいただき、念願の対面を果たせた。宮古島で2人のお医者さんが、最先端の予防医学で一人ひとりのウェルビーイングに合う治療・健康増進の新たな世界を創造している。Dr. コトーの犠牲的な献身の限界を超えてくれると期待している。2人の医者の姿には外科手術の派手さはないが、「病気を診るではなくて人を観る」Dr. コトーと重なって見える。

保険業界のDXにも、一人ひとりのウェルビーイングにつながる顧客体験の創造を期待したいし、自分自身も一助となるように活動を続ける。

【畔柳主税（あぜやなぎ・ちから）氏のプロフィル】
静岡県富士市生まれ・東工大卒。石油会社のIT部門から2008年より保険業界向けのITソリューション・DXの企画・営業に携わる。持ち味は企業コラボ。